

「住みたい街・佐世保」

の仕上げに全力を注ぎます

光武市政の3期目がスタートするに当たって、2期8年の成果を振り返るとともに、これから取り組もうとする政策課題や市長の政治姿勢などについて市広報係が聞きました。



市長就任式

「住みたい街・佐世保」の実現のため、これまでの8年間に取り組んできた重要施策の中から、特に印象に残るものについてお聞かせください。

まず、福祉問題ですが、高齢社会への対応については、平成12年度に導入した介護保険などの取り組みの中で、市民の皆さんにもかなりご理解いただけたと思います。しかし、少子化については、人口が急速に減ったり、若者が少なくなったりという将来的な問題を含んでおり、現時点ですぐにご理解を得るといのは難しいようです。

そのような中で、障害がある子どももない子どもも、健やかに育ってほしいと願い、子ども発達センターを作りました。また一昨年設置した「佐世保市の教育を考える市民会議」でも少子化問題をご論議いただきました。さらに、市内の会社経営者の方々に「父親の授業参観」を促す手紙を出しました。

交通大系の整備は、西九州自動車道・佐世保道路の佐世保みなとインターまでの区間が完成し、渋滞が緩和されると同時に、利便性が高まりました。また、矢岳町までの第四工区についても、ことし3月に着工しました。



市内南部地区の約一カ月分の水が確保できる見込みです。さらに長期対策として石木ダム建設の実現に向けて努力しています。これらの政策はさらに充実しながら、引き続きやっていかなければなりません。

平成9年には、長年の課題であった佐世保市場の相浦移転を実現しました。この跡地利用を含めた、新しい街づくりである佐世保駅周辺再開発事業も完成に近づいています。

昨年度の市制百周年記念事業で街は大いに活気づくとともに、ふるさとの歴史や文化、自然に対する認識も新たにしました。最終的には、70数億円という経済効果も生み出しました。

長崎国際大学の新設によって、新たに千五百人の若者が市内に住むというのは、今の地方都市ではなかなか考えられないことです。本市の文化、知的レベルが上がるとともに、経済効果もあります。

水問題では、平成6年の大湯水の体験を踏まえて、水資源対策に取り組みました。短期対策では、川棚川暫定豊水施設や南北融通施設などを整備しました。中期対策では、下の原ダムのかさ上げ工事が完成すると、

「住みたい街・佐世保」とは、経済的に不安がなく、子育てをするにも、

まず、当選を果たされた現職の心境をお聞かせください。

選挙中、改めて市内を隅々まで見て回り、街がきれいになったというのが第一印象でした。また、直接市民の皆さんとの対話を通して、私と市民との距離が一層近くなったように感じました。多くの市民のご支持を得、この期待を裏切らないように務めてまいりたいと思います。

まず、経済が活発にならないと税収も増えず、行政も十分な事業推進ができません。経済活性化策としては、自然を生かした観光産業が挙げられます。九十九島とハウステンボスを市の中心部で結び付け、観光で街の経済を活性化するという、私が市長就任当初から言っていたことが、アルカスSASEBOで全国規模のコンベンションができるようになり、可能になりました。

西海パールシーの経営状態もよくなっています。遊覧船、ヨット、カーニバルなどに加え、九十九島牡蠣が人が集まる。ハウステンボスが再建されると、8年前に考えた理想が実現に近づくことになりそうです。

「佐世保市の教育を考える市民会議」については、ことし2月に提案を受けたものを各部署で十分検討して、予算措置していきたいと思えます。教育の問題は、教育委員会が中心になりますが、子育て、高齢化の問題などを含めて、全庁的に取り組んでいかなければなりません。

佐世保駅周辺再開発事業は、港側の12ヘクタールの土地の活用を進めます。

基地のすみ分け問題については、返還6項目をより現実的な新返還6項目として議会にご検討、決議をいただき、その後、関係者の方々の



光武顕市長

粘り強い交渉の結果、4分の1世紀の間何も動かなかったものが、動き始めました。

港のすみ分けの前提になる、ジュリエットベイソン（平瀬係船池）の新岸壁建設が本年度から本格的に着工になります。これが完成すると、立神3号岸壁の一部と4、5号岸壁、赤崎貯油所の一部、旧ジョスコ線、の返還が大きく動き出します。前畑弾薬庫の移転返還が大きな問題として残っていますが、国や米軍、地元住民のご理解を得た上で、軌道に乗せたいと思っています。

最後に、公約にある市民協働の市政についてご説明ください。

市民協働の市政とは、市民の皆さんに信頼していただけるような姿勢で市政に取り組むということです。そのためには、情報公開をし、説明責任を果たして、市民のご意見をとり入れながらまちづくりの計画を行

うということですが。

また、子育てにしても、子育て経験者などが悩みを聞きながら、ボランティアでやるといった発想です。行政がやるよりも、きめの細かい質の高いものができる場合もあります。NPO（民間非営利団体）にしても、社会のためにどうするのかという観点でやっていただく。行政はこれを自立できるように支援したい。

自分が自分を助ける、あるいは公に頼るといふことにも限界があり、これからは、自発的に市民共々が助け合う、共助の精神が不可欠です。

少子高齢化、グローバル（世界規模）化というかつて私たちが体験したことのない新しい事態に対応する

ためには、意識改革が必要です。市民協働で何ができるか、市議会議員の皆さんとも話し合いたいと思えます。

現在、社会が閉塞状態に陥っているのは、経済成長が神話のようになって、それだけを追い求め、経済成長が止まったとき、よって立つものがなくなってきたからだと思います。豊かになるにつれて教養を磨き、物事をきちんと判断する規範のようなものが出来てこなければなりません。ボランティア活動などで生きがいを持ち、人のために役立つような生き方を見つけていくことも必要です。

まさに新しい百年に向けての基礎づくりです。

みんなで考えよう

市町村合併

シリーズ

2つの合併協議会の一本化を念頭において協議を進めます

佐世保市は、ことし2月3日に世知原町と、4月1日に吉井町とそれぞれ合併協議会を設置し、以下の申し合わせ（合意）をしました。

両町との話し合いは、法手続き上2つの協議会で行っていますが、1市2町が、まちづくりの基本的な考えを含めて、合併に関する方向性について共通認識を持っているため、できるだけ早い時期に両協議会の本一本化を図る。

一本化された場合には、両協議会の委員は、1市2町で設置する合併協議会の委員になる。一本化までの間、協議会委員の研修会などを1市2町が共同で進めていく。

お尋ね 市役所市町村合併事務局 (☎ 1111)